

イオン北海道からみなさまへ

脱炭素社会の実現にむけて



マックスバリュ沼ノ端店



マックスバリュ2店舗にPPAモデルを採用した太陽光発電システムの再エネ設備を導入

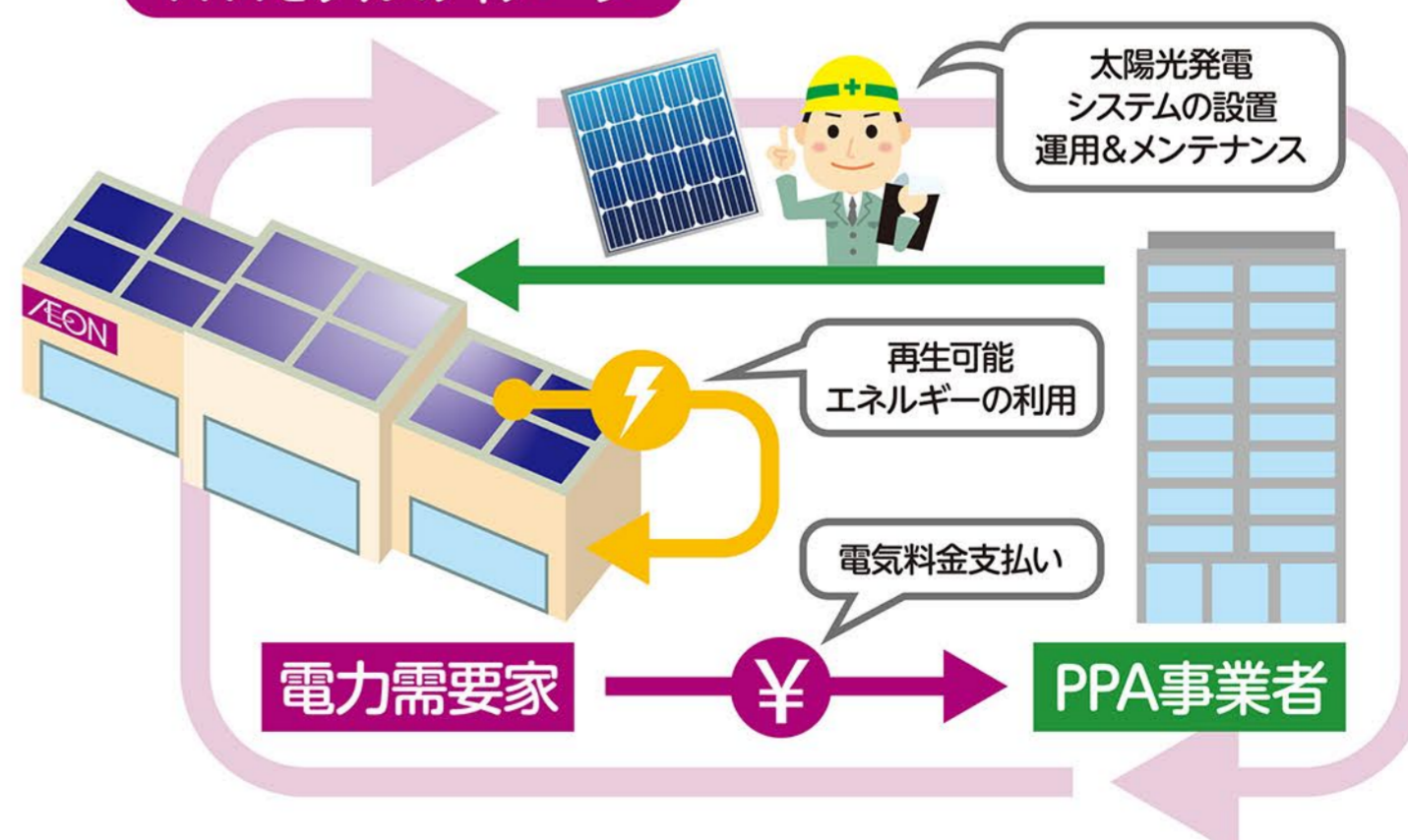
イオンでは、2018年に「イオン 脱炭素ビジョン2050」を策定し、省エネ・創エネの両面から店舗で排出する温室効果ガス(CO₂)を総量でゼロにする取り組みを推進し、2050年に向けて脱炭素社会の実現を目指しています。

イオン北海道では、その取り組みの一環として、2021年12月に苫小牧市の「マックスバリュ沼ノ端店」「マックスバリュ弥生店」の2店舗にPPA(Power Purchase Agreement(電力販売契約))モデルの導入を開始しました。PPAモデルとはPPA事業者が電力需要家の敷地や屋根等のスペースを借り太陽光発電システムを設置し、そこで発電した電力を電力需要家

に販売する事業モデルのことで、2店舗は設置した太陽光パネルから発電された電力を自家消費分として購入・活用しています。

今年度も脱炭素社会の実現を目指して、店舗へのPPAモデルの導入を通じ、再エネの利用を推進していきます。

PPAモデルのイメージ



SDGsの取り組み



SDGs(持続可能な開発目標)とは、持続可能な世界を実現するために国連サミットで採択された、2030年までの国際目標です。この取り組みによりSDGsの目標7.11.12.13.17の達成に貢献します。